

敬老事業の一環としての講話

■ 目的

自治会の会員も近年高齢化が進んでおり、高齢者支援事業の一つとして「賢い消費者になるために」と題して講話の開催を計画した。

■ 事業の内容

安心・安全な日常生活を送ることを目指し、孤立化しやすい近隣高齢者とのコミュニケーションをはかるための敬老会を実施
敬老会と併せて消費者行政に関する講話を実施

◆講話の内容

「次々と新しい手口が現れる悪質な勧誘、詐欺的な手口とは？」などについて（成果・感想も参照）

■ スケジュール

6月16日	打合せの連絡（班長）概略説明と今後の予定
6月28日	打合せ（役員）
7月11日	講話テーマの選定
8月8日	案内状を回覧 72世帯に連絡
8月30日	打合せ（班長、役員） 当日までの準備、購入品、弁当手配、役割分担など
9月6日	敬老会実施（参加者 21人）
9月14日	反省会（班長、役員）次年度に向けた計画
10月4日	反省会（役員）次年度に向けた計画・再確認

■ 事業にかかったお金

物品購入費

お弁当代、飲み物、印刷用紙、
写真用紙、プリンタインク、
紙コップなど

レンタル・リース料
会場使用料

印刷経費
コピー代

■ 当日の様子



ロールプレイ形式の学習



映像による学習

■ 成果・感想

講話の会場は近所の都営住宅の集会所をお借りしました。講師のお話は、まず、アンケート形式による『騙され易さをみる心理チェック』にはじまり、手の込んだ詐欺の手口を講師が用意した台本をベースにロールプレイ形式で集まった仲間がそれぞれ役を演ずるとか、あるいは、スライドによる手口の紹介等々、かなり密度の濃い、しかも、内容のあるお話を約1時間にわたり、拝聴することができました。

講話の後の昼食会は、普段、疎遠になりがちな近隣住民との和やかな交流の場となり、こうした交流の中から近隣住民の生活・健康状況などを把握することができ、自治会として今回の交流の場作りが、今後も必要であろうと痛感すると同時に、回覧以外にも声を掛け合い、郵便物の滞りなど日頃から会全体での見守りや、緊急時も踏まえた日頃の連携が、今後も大きな課題となるものと考えています。